

ベストクラス選定理由書

作成者：堤佳代，生田みのり，寺脇直花，上原莉奈，辻本実里，坂本勝志，山中一英，河相善雄

科目名称： 肢体不自由児指導論	(担当教員名： 石倉 健二)
課 程： 大学院（修士）	開講時期： 前期
授業形態： 講義	授業規模： (31名)
インタビュー対象教員名 石倉 健二 (実施日時：7/31(13:10～14:40)；実施場所：ZOOM)	
インタビュー対象受講者名 東 法子,大橋 真帆 (実施日時：8/6(13:10～14:40)；実施場所：ZOOM)	
<p>選定理由</p> <p>本授業の目的は、肢体不自由教育の歴史や教育課程，自立活動等の基本事項について学び，肢体不自由についての特徴や指導方法について理解し，肢体不自由児の個別の指導計画を考えることができるようになることにある。その際，肢体不自由に関連する解剖・生理・病理・心理についての内容を十分に押さえながら，肢体不自由児の援助指導法・教育課程・社会資源について学び，子どもの視座に立ちながらも根拠となる理論に基づき，個別の指導計画を作成することができるようになることを意識した内容で構成されている。担当教員と学生へのインタビュー調査から明らかになったこの授業の具体的な特徴は，次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の自立的動機づけを促す「架空事例」が提示され，理論を活用して判断する深い学びの場が作り出されている。 教員は，肢体不自由児への思いだけでなく，障害の状態や特性及び心身の発達段階等を考慮した個別の指導計画を学生が作成できるよう，「架空事例」の作成に工夫を凝らしている。また，グループワークでは，各グループを巡って，適宜アドバイスをを行っている。 学生は，初回の授業で個別の指導計画を作成するという最終課題の確認ができており，事前に配布される資料で予習をして，高い目的意識を持って授業に臨んでいる。また，グループワークでは，それぞれに調べた資料を持ち寄り，共同して個別の指導計画を作成している。その際，根拠となる理論の妥当性を確認しあって学びを深めている。 2. 教科書としてはたらきをするテキスト資料が，学習の効果を高めている。 教員は，毎回，10枚程度のテキスト資料を作成し，学生に配布している。これは，とじ合わせていけば一冊の本になるという仕掛けをもち，実際に学校現場に出ても活用できる内容となっている。その中で文献の紹介もしており，学生の主体的な学びを促している。 学生は，毎回の授業や個別の指導計画を自力作成する際に，このテキスト資料に書かれている理論を根拠として活用している。 3. 学生への細やかな配慮がなされ，教員と学生が熱意をもって授業に臨んでいる。 教員は，留学生や視覚障害の学生に配慮し，文章と図の両方を使って統一された形式でわかりやすく配置したテキスト資料を作成し，画面提示をしている。また，授業のコメントカードを活用し，学生が質問しやすい環境をつくり出している。 学生は，コメントカードを利用して些細なことでも積極的に質問し，自分の苦手とするところを克服できるように努めている。また，教員が一人ひとりに向けて書いたコメントをもとに自分の理解状況を確認し，学習への不安を解消している。 教員の専門家としての熱意が，学生にも刺激を与え，授業への参加意欲となって現れている。 <p>【総括】</p> <p>知識や内容が充実しており，具体性の高い授業であったことが推察される。学校現場において必要となる個別の指導計画の自力作成ができるように，分析力の形成や総合力の醸成につながるグループワークが実施されており，理論と実践を繋げる授業展開であることが窺われる。特別支援学校教諭免許状取得を目的とするだけでなく，受講生の力量形成に応えたものであったと考えられる。また，授業評価やインタビューで，教員の人柄や熱意に触れられたコメントが述べられていたことから，この授業の内実が評価されていると感じた。よって，本授業はベストクラスの候補に相応しいと結論した。</p>	